

## 折に触れ 四字熟語

### NO. 192 〔蛙鳴蟬噪〕 あめい せんそう

< 意味 > 無駄な表現が多く、内容の乏しい下手な議論や文章。無用の口論や下手な文章をいう。蛙や蟬がやかましく鳴くように、騒がしいだけでなんの役にも立たないという意から。「蟬噪蛙鳴」ともいう。

< 出典 > 蘇軾の詩

用 例 : 成程彼輩に於ては二十三年迄は国会とか憲法とか蛙鳴蟬噪するの自由を有することもあるべし。<徳富蘇峰・明治二十三年後の政治家の資格を論す>

語 釈 : 「噪」は騒がしく鳴く意。

一 言 : オリンピックのボクシング女子で、金メダルを取った選手が「もうボクシングはやめて蛙を探す旅に出たい」と意外というか微笑ましいことを言っていました。蛙も蟬も私の好きな生きものですが、この四字熟語ではひどい扱いを受けています。

参照文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」